

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	J-Pop における「平和」 : 秋元康と深瀬慧の作詞をめぐって
Author(s)	アーマド スブハン ヒダヤット,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 29期 : 143 - 157
Issue Date	2014-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038696
Right	
Relation	



J-Pop における「平和」

— 秋元康と深瀬慧の作詞をめぐる —

アーマド・スプハン・ヒダヤット

1. はじめに・研究の目的

広島といえば世界平和の象徴となる都市だ。悲劇的な過去の過ちを繰り返さないよう世界中に訴えている都市である。私は広島に来てから「平和」のことをよく考えるようになった。広島大学の授業で教えていただいて以来、日本の「平和教育」にも興味を覚え、もっと調べたいと思った。しかし、普通の勉強はいくらやっても切りがない。一方、社会、特に若者の社会には様々な主張、表現の方法がある。その一つが音楽である。音楽には様々な種類、ジャンルがあり、聴く人は自分の好みによって選べる。しかし、日本には世界にも知られる独特の J-Pop がある。

現在、日本の J-Pop には「ともだち」や「恋愛」をはじめ、誰でも自由に好きなものを選べるほどたくさんのテーマの曲がある。ヒットメーカーとして知られる作詞家、秋元康の作詞の中にも「平和」がテーマとなった曲が少なくない。また、若い作詞家の代表としては最近人気が出ているバンド「世界の終り」のボーカルの深瀬慧も若者らしい「平和」がテーマの曲を書いており、高く評価されている。

「平和」とは何か、「戦争に反対する」ためにはどうすればいいか、この素朴な疑問を出発点として、この二人の作詞家の書いた曲を考察しようと決めた。これらの曲は実際若者にどれくらい知られているのか。平和教育や音楽に関する調査も含め、広島大学の学生を対象にアンケート調査も行った。

2. 日本と平和

2. 1 戦後の日本における「平和」

1945 年、日本はポツダム宣言を受け入れ、過去の反省によって戦争の放棄と戦力の不保持という平和主義を定めた。その後、日本国憲法が施行され、あらたな歩みが始まった。しかし、その後現在まで問題がないとは言えない。今の日本人については「戦争アレルギー」とか「平和ボケ」と言われることも多い。「平和ボケ」という言葉が使われたのは世界の平和に貢献しようとせず、日本以外の国の平和に関心を持たない一国平和主義に対してであった。また、平和教育推進を目標に平和ボケしたと見える人々に「戦争の悲惨な現実」を認識させるためだったようだ。

2. 2 「平和教育」：音楽による平和教育

百科事典マイペディアの解説によると、「平和教育」の定義は、「人間の生命の尊厳を否定する一切の暴力に反対し、平和を愛し平和社会の事実に貢献しようとする人間を育てる教育」となっている。これまで、平和教育は、原爆教育、反戦教育という側面だけが強調されがちだった。

一方、平和教育地球キャンペーン国際専門会議では、教育方法についてのさまざまな課題が討議され、最もふさわしいとされたものをいくつか紹介している。その一つは芸術である。歌詞や音楽、演劇、絵画、その他の造形芸術をとおして、関心のあるもの、自分の考えを表現する。これらは想像力を活性化し、主要教科として力点をおかれているもの以外において子どもたちの能力を引き出すことができる¹。

3. 「平和」を歌う

3. 1 秋元康の作詞、深瀬慧の作詞に表される「平和」

日本の J-Pop（ジェイポップ、英: Japanese Pop の略）というジャンルは 1990 年代から音楽市場が爆発的に拡大するとともに、世界の音楽市場でアメリカ合衆国に続き、第 2 位となったことでよく知られている。

現在の J-Pop で随一の作詞家としてよく知られている秋元康（あきもとやすし）と最近人気が出ている若い作詞家、深瀬慧（ふかせさとし）の作詞からそれぞれ一つ選び、比べてみようと思う。どちらも日本人の作詞家だが、年齢、活動の背景、価値観、考え方などはかなり違うだろうと思うのだが、違いだけでなく、共通点もあるだろうとも考えながら考察する。

3. 1. 1 秋元康作詞『誰かのために』

「秋元康」といえば「アイドルのプロデューサー」というイメージが強く、アイドル好きな人向けの歌らしく内容の軽い歌詞が多かった。しかし、知名度が高く、ヒットメーカーとも呼ばれている秋元康だが、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の復興キャンペーンのためにかなり内容の深い曲も書いている。それは『誰かのために』という曲である。AKB48 が歌う人間関係や助け合いを大事にしようという内容の歌詞だが、その中には戦争に反対するという言葉もある。

AKB48 - 誰かのために

(作詞：秋元康 作曲：井上ヨシマサ)



[Redacted text block]

3. 1. 2 深瀬慧作詞『世界平和』

秋元康と違い、深瀬慧とその「世界の終わり」というグループは「若さ」を主張する。グループの名前を見ると、「ネガティブ」な印象を与えるが、実は必ずしもそうではない。むしろネガティブなものでも、もっと自分にプラスになるように考えられるかもしれない」という意識を持っており、メロディーもビジュアルも、そしてもちろん歌詞もほぼそのような感じだった。その曲の中に「平和」をテーマとする曲は何曲もあるが、曲名を見ればすぐ分かる『世界平和』に決め、もっと細かく分析したいと思った。

世界の終り 世界平和

[Redacted text block]

THE WORLD PEACE WAR(世界平和戦争)



4. 「平和」と音楽の関わりについての日本人の意識調査

秋元康作詞の『誰かのために』と深瀬慧作詞の『世界平和』について考察する前に、この研究では日本人、特に日本の若者が「平和」と音楽の関わりについてどのような意識を持っているかを調査した。2014年6月24日から2週間に渡って、広島大学の大学生、主に日本人の学部生を対象とし、100枚のアンケート用紙を配った。締切までに100枚のうち84枚が回収できた。そこで、その84枚の回答について以下で説明する。

4. 1 アンケート調査と結果

まず、回答者の学年と学部の割合を下記のグラフで示す。

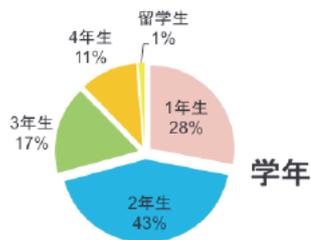


図 1



図 2

回答者のほとんどは私のサークルの仲間と文学部のアラビア語授業で知り合った友達なので、上のグラフで示すように、二年生が一番多い。そして、人数は教育学部、総合科学部、文学部が多かったが、他にもほとんどの学部、学年の回答者がいた。

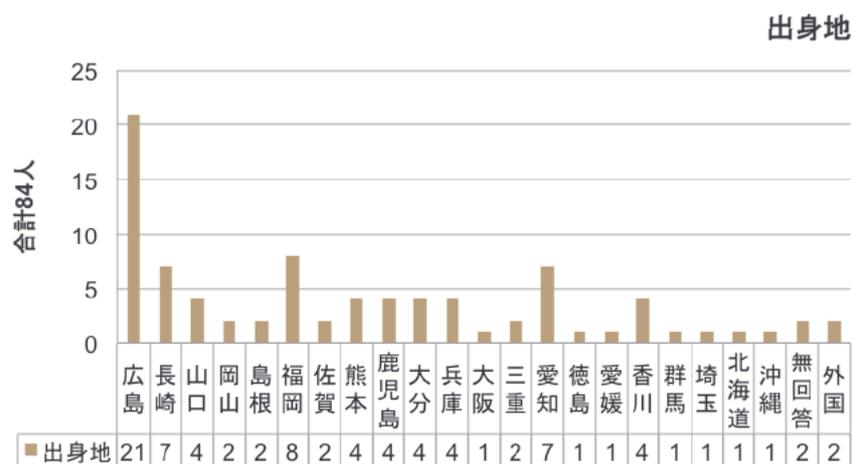
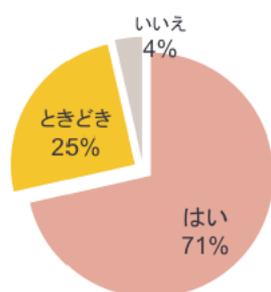


図 3

上のグラフは回答者の出身地を示したものである。このデータによって、その県では平和教育を行ったか、平和教育にどんな歌が使われたかを知ることができる。広島県をはじめ中四国と九州地方出身の回答者がもっとも多かったが、地理的条件が影響する可能性もある。

普段音楽を聴いているか



ジャンル

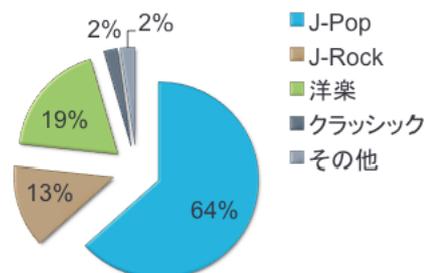


図4

図5

そもそも、普段音楽を聴いているのかどうか、またどんな音楽のジャンルがもっとも好まれているのかも調べた。図4に示したように、「はい」と答えた人が圧倒的に多い。そして、ジャンルではJ-Rockや洋楽よりもJ-Popが多く、64%で一番人気である。

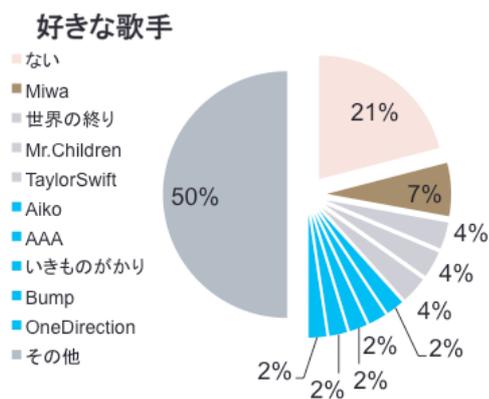


図6

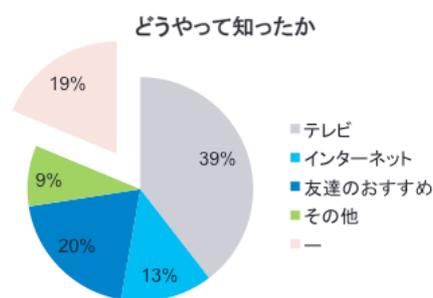


図7

次に「好きな歌手は？」と聞いたが、「特にいない」と答えた人が21%いる。7%の「Miwa」が一番多かったが、他は完全にバラバラと言える。これをみれば洋楽のミュージシャンを除き、日本の歌手・ミュージシャンはさまざま、選択肢が豊かにあると分かる。

一方、日本人の大学生はあまりテレビを観ないのではないかと考えやすいが、図7に示したようにインターネットや友達の推薦よりもテレビが影響していることが分かった。

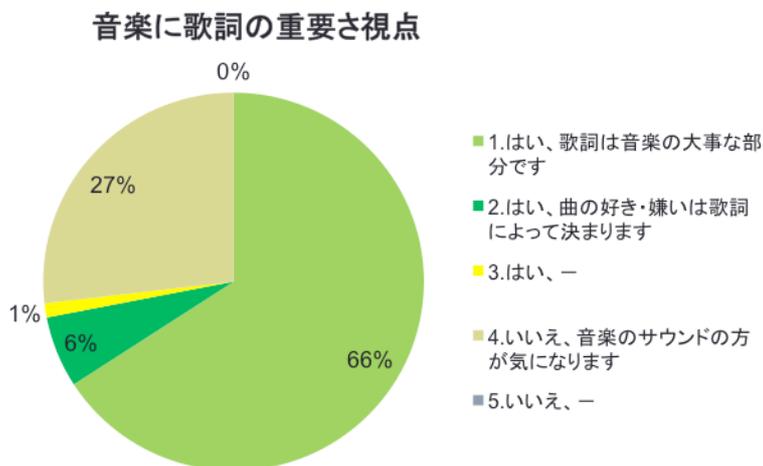
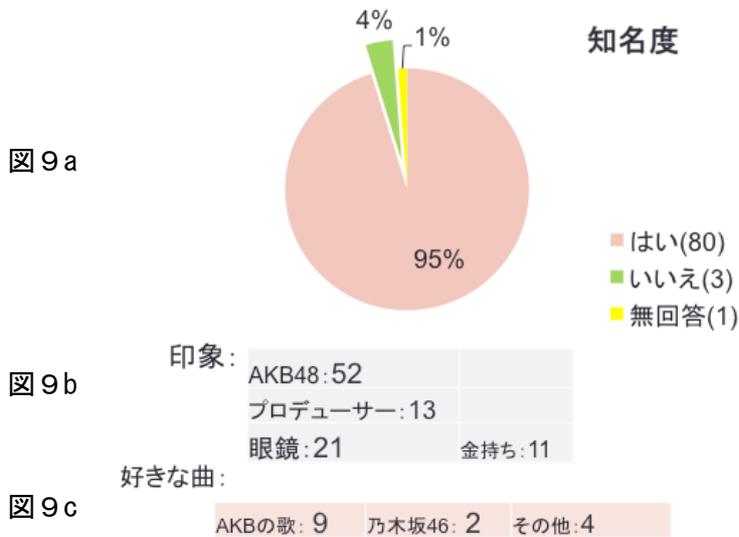


図 8

次に、歌の歌詞をどのように見ているかを聞いたところ、66%の回答者が「歌詞は音楽の大事な部分」と答え、曲の好き嫌いは歌詞によって決めると答えた人も6%もおり、合わせて72%の回答者が「歌詞は重要」と考えていることが分かった。他は、「音楽のサウンドの方が気になる」と答えた人は27%、残りの1%はどちらも重要と答えた。

・ 秋元康はどれぐらい知られているのか



この研究では秋元康作詞の『誰かのために』について考察するため、この作詞家がどれぐらい知られているのかを調べたところ、図 9 a に示したように、95%という圧倒的な知名度があった。そして、「三つの言葉で印象を表してください」と聞くと、歌詞・作品の素晴らしさよりも「AKB48」や「眼鏡」、「プロデューサー」という見た目や本職の印象が強いようだった。一方、「はい、知っている」と答えた人は多いが、秋元康作詞の中に好きな曲があると答えた人は15人(19%)しかいなかった。

・ 深瀬慧(ふかせ・さとし)はどれぐらい知られているのか

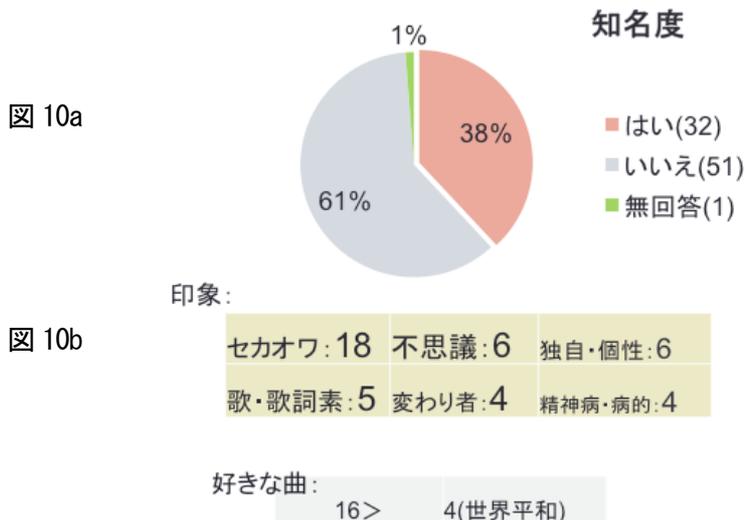


図 10c

次に『世界平和』の詞を書いた深瀬慧はどれくらい知られているかを図 10a に示す。「はい、知っている」と答えた人は 38%しかいないが、どんな印象を持っているかと聞くと、「不思議」とか「歌・歌詞が素晴らしい」と答えた人、所属しているグループ（世界の終わり。通称：セカオワ）の活動の他にも才能があると認める人も数人いた。

深瀬慧作詞の歌が好きだと答えた回答者もかなり多く、その4分の1は好きな曲として、この研究で対象とした曲『世界平和』をあげている。

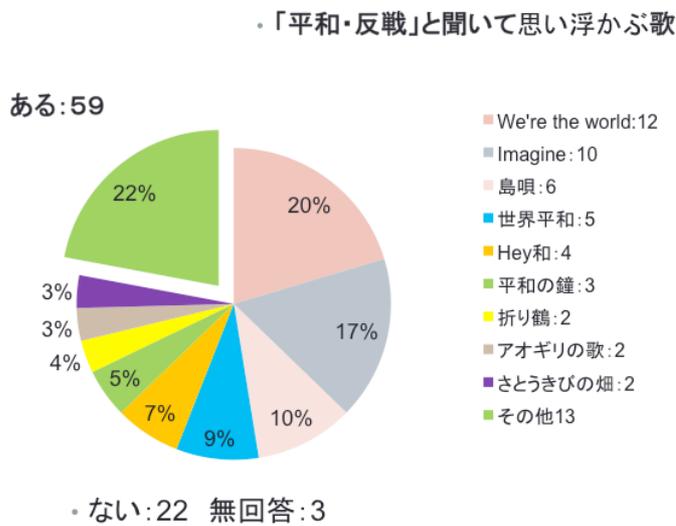


図 11

上のグラフは「平和」がテーマとなった歌と言うと、どんな曲が思い浮かぶかという質問への回答結果を示す。「ある」と答えた人 59 人の中では『We're the World』と『Imagine』がもっとも多かった。洋楽だが、世界中でよく知られている曲なので、「平和」の印象が強いのだろう。日本の曲では『島唄』、『世界平和』、『Hey 和』など、J-Pop の歌がかなりあがった。

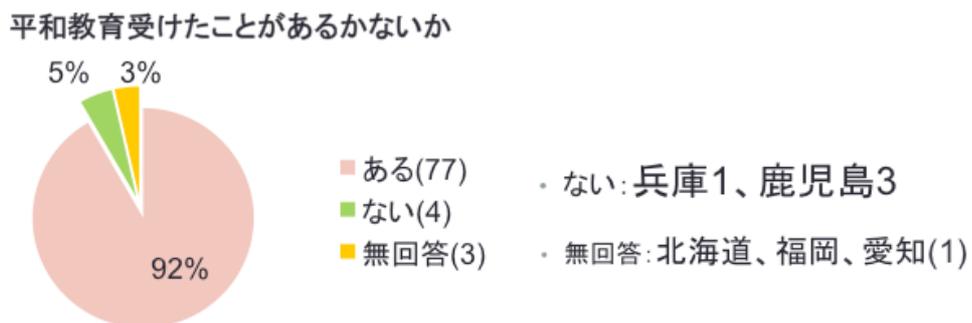
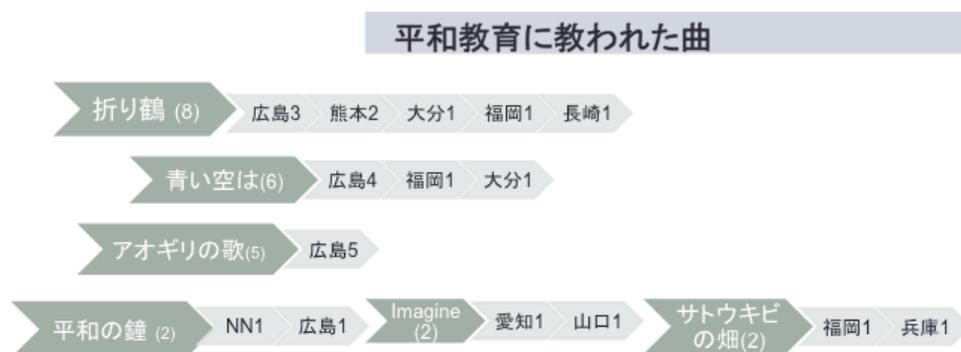


図 12

上のグラフにあるように、学校で「平和教育」を受けたことがあるかないかを聞くと、ほとんどの人（92%）が「ある」と答えた。一方、「ない」と答えた人は兵庫県が一人、鹿児島県が三人いる。ただし、他の兵庫県と鹿児島県の出身の他の回答者は「ある」と答えているので、そこで平和教育が行われていないとは言えない。



- ・ (忘): 7 (広島3、長崎、山口、三重、静岡)
- ・ 他: 月桃 (沖縄)、長崎の鐘 (長崎)、We're the world (熊本)、原爆かも * (広島)

図 13

図 13 は平和教育でどのような曲を教えてもらったかを示している。『折り鶴』が一番多く、つぎに『青い空は』と『アオギリの歌』が来る。どの曲も広島県が一番多かったが、『アオギリの歌』は特殊で、広島県でしか教えられないようだ。その他、「あるけど、忘れた」と答えた人も7人いた。それについても広島県出身者がもっとも多かった。

一方、その県の歴史などに応じ、広島県以外にも特殊な曲を教える県がいくつかある。沖縄県には『月桃』、長崎県には『長崎の鐘』、また広島県にも担任の先生が書いた曲：『原爆かも』というひじょうにローカルな曲を回答として書いた人もいる。

5. 歌詞と記号性

5. 1 構造と記号性（リファテールの「詩の記号論」）

詩や歌詞の全体の意味を解釈するためには、そのテキストに含まれるさまざまな記号を分析しなければならない。マイケル・リファテールは詩の記号・意味を解釈するには4つの型があると言う。リファテールは『詩の記号論』で以下のように述べている。

① Heuristic / ヒューリスティック（発見的読み）

「詩の読解は、まずテキストをはじめから終わりまで、ページの上から下まで、統語的な解析によって順序よく読むという第一段階の読みから始まる」【リファテール 1978 : 8】とある。そのテキストを段落ごとに、あるいは文ごとに文法的に

読むということだろう。

② Hermeneutic / ハーマニューティック (解釈的な読み)

「テキストを読み進めながら、読者はいったん読み終えたテキストを思い出し、新たな読解に基づいてそれについて理解を訂正する」【リファテール 1978 : 9】。
つまりこの段階では①に続き、段落や行に記号的意味が付け加わり始める。

③ Intertextuality (間テキスト性)

作品は必ずと言っていいほど他の作品に依存し、何か関係がある。詩・歌詞という作品もそうだ。リファテールは、「記号とは、何か他のものに対する関係にすぎない。一つのシステムを形作る構成要素同士がつねに変更可能でなければ、そのシステムは意味を持たない。」【リファテール、1978 : 16】。

④ Matrix, Model (母型、モデル)

「詩は、母型、すなわち字義通りの意味を成す最小の文を、長く、複雑な、そして字義通りの意味を成さない迂言(ペリフラシス)に変形することによって成立する。母型はある構造の文法的・語彙的な実現を示すに過ぎず、仮説上のものである。母型は一語に縮約されることもあるが、そのような場合、その言葉はテキスト上には現れない。それは常に連続して現れる変異体によって実現されるのであり、その変異体の形式は最初の、あるいは一次的な実現、すなわちモデルによって決定される。母型、モデル、そしてテキストは同じ構造が変異したものである。」【リファテール、1978 : 26】。簡単に言うと、母型が決まっていれば、全体をまとめた時、その詩は一言で言える。

ここでは秋元康作詞の『誰かのために』と深瀬慧作詞の『虹色の戦争』の歌詞にはどのような意味があるのかを知るために、この4つの型を使い、分析する。

5. 1. 1 ヒューリスティックとハーマニューティックによる分析

まず、秋元康作詞の『誰かのために』から分析する。

神様は人々のその背中
いつでも見てると聞かされた
そう どの誰にでも平等に
愛を与える
私が生まれた日から 今日まで
陽射しのような そのぬくもり
やさしく包まれてた
誰かのために 人は生きてる
私に何が できるのでしょうか?

まず、秋元康の詞はだいたい難しい言葉や比喩的な言葉はあまり使わず、聴く人に内容がよく伝わるようになりやすい言葉、やさしい文法を使っている。この『誰かのために』の歌詞もそうである。まずヒューリスティック（発見的読み）では歌詞を読んだ時点で既に達成していると言えよう。

次のハーマニューティック（解釈的な読み）によると、この段落は「人は誰でも愛されるもの」を強調していると言える。神様の存在を意識しながら、今まで生きてこれたことはありがたいと思っており、それを「陽射しのような そのぬくもり」で表している。その温かさや愛は誰にもあっていいはずだが、実際はそうではない。そんな私たちと違い、不幸な境遇に置かれた人たちのために私たちは何ができるのだろうかという葛藤の気持ちが示される。

悲しみに出会ったら 瞳を閉じて
その背中を意識してみて
暖かな眼差しに気づくはず
守られてると・・・
どこかで季節の風が そよいで
木々が次第に 揺れるように
愛とは伝えるもの
一人ぼっちじゃ 生きて行けない
誰かがいるから 私がいるの
誰かのために 人は生きてる
私に何が できるのでしょうか？
誰かのために 誰かのために
人は生まれて しあわせになるんだ

この段落では前の段落と同じように、「人々の背中をいつも見ている神様」を感じられたら、どんなに悲しいことに会っても、その「温かさ」、「愛」が与えられると言える。しかし、やはり「愛」とは人に伝えるものであり、生きていくためにも他の人と関わる必要がある。今幸せな自分は他の人のおかげでそれに気づき、お返しに他の人のために自分は何ができるのだろうかという気持ちを表している。そこからまた、その幸せを求め続ける人はいったい誰のために生きているのかという次の疑問が出る。

世界からすべての 争いが消えて
ひとつになる日まで 私は歌おう
愚かな戦争を ニュースで観るより
声が届くように 私は歌おう

この最後の段落では戦争を批判している。前の段落で人は一人では生きていけない、人は愛を伝え合うものと言ったが、やはり戦争はそんな人間の本質を無視する。一方、「愚かな戦争を ニュースで観るより」では、今自分は戦争に直接関わっていないが、「声が届くように 私は歌おう」では、今できることをやり、歌手としてこの歌によって、この声、この思いが届くかもしれないと思い、歌い続けるという意味だ。

一方、深瀬慧作詞の『世界平和』はどのような意味を表しているだろうか。ここで秋元の『誰かのために』と同じ枠組みで分析してみよう。

まず、ヒューリスティック（発見的読み）は同じように文法も文の並べ方も分かりやすいため、ハーマニューティック（解釈的な読み）から始める。

人間という怪物は「セカイ平和」という戦争を起こしてる
平和なんて化け物は本当は存在していない
普通に異常な貴方は「間違い」を主張して笑おうとする
「正解」なんて化け物は本当は存在していない
「セカイ」の中に花は入っていない
「世界」の中に人は入っていない

THE WORLD PEACE WAR(世界平和戦争)

この段落では世界平和のために戦争を起こすとか、間違いと正解は誰が決めるのかなどさまざまな皮肉、矛盾する言葉がよく使われている。「世界平和戦争」というふうに「世界」を使い、その世界に存在する「花」をはじめ他の植物や生き物のことを戦争を起こすときに人間はちゃんと考えてやっているのかと批判し、否定文で表している。

猟奇的な一般の市民は「世界」中で血の雨を降らし
「セカイ」中で一つになってこういうんだ 「世界平和」
猟奇的な一般の市民は「世界」中で血の雨を降らし
「セカイ」中で一つになってこういうんだ 「世界平和」

この段落はこの歌のサビとなり、最も印象的な部分である。今の「世界平和」は「血の雨を降らした」結果、戦争の結果であることを強調している。

僕ら以外の生物は「世界平和」という戦争を起こしている
自由なんて化け物は本当は存在していない
普通に異常な僕らは「正解」を主張して謳おうとする
「間違い」なんて化け物は本当は存在していない
「セカイ」の中に虫は入っていない
「世界」の中に僕は入っていない

THE WORLD PEACE WAR(世界平和戦争)

この段落も最初の段落と同じように皮肉が多く、文法の使い方、言葉も似たものになっている。例えば「僕ら以外の生物は『世界平和』という戦争を起こしている」というところも辛辣な皮肉だ。人間以外に戦争を起こせる生物はいないのだから、「僕ら以外の生物」とは「戦争をしている国の人間」だ。「正解」を主張することは「間違い」の存在を指摘することだが、そんな区別は本当はできないと言う。

貴方たちが願う平和は世界平和じゃないんです
花や虫や僕らの星は貴方たちに殺されてるんです
「私たち世界人類に平和がありますように」
世界中の子供たちに戦争のない未来を願いましょう
「神様、人類を滅ぼして下さい」「神様、私たちの世界に平和を」

これは最後の段落らしく「結び」のようにになっている。関係のない人を含め、この世界に生きている他の生物も殺されるのなら、「世界平和」などとは言えない。一方、人類にとって本当の平和、世界中の子供たちのために戦争のない未来を望む、それがこの曲『世界平和』の意味するものなのだろう。なお、最後の行で、「神様、人類を滅ぼして下さい」と「神様、私たちの世界に平和を」は相反する願いに見えるが、これは「世界平和」を人類のために願うのではなく、他の生物のために願うということだろう。

5. 1. 2 間テキスト性

記号とは、何か他のものに対する関係にすぎない。この秋元と深瀬の歌詞も世界で孤立しているわけではない。戦争のない平和な世界を訴えるこの二つの曲は次に示すテキストとの間に記号的関係を有すると考えられる。

日本国憲法第九条と「間テキスト性」

人と人の助け合いを求め、戦争を否定する秋元の『誰かのために』、世界平和を望む深瀬の『世界平和』と同質の主張をするテキストが他にないかと考えれば、「日本国憲法第九条」が頭に浮かぶ。日本国憲法第九条はこのように書かれている。

- ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

日本国憲法第九条の第1項は「戦争の放棄」、第2項は「戦力の不保持」と「交戦権の否認」という規範的概念で構成されている²。これはパリ不戦条約（1928年）の第一条と文言が似ているのだが、政府見解により自衛隊は憲法第九条第2項にいう「戦力」にはあたらない組織と解釈されている。

なお、日本国憲法九条は、戦後 60 年余り一度も改正されないうたが、2014 年 7 月に、憲法改正について論議が行われた。そして、これまでなかつた「集団的自衛権」の解釈が示され、それによって日本の自衛隊が同盟国を守るための戦争に行く可能性がある。この問題をめぐり、賛成意見、反対意見の攻防が続いている。改正反対派は「憲法第九条は世界に誇るべき条文であり改正すべきではない」、「集団的自衛権を認めると、アメリカの戦争に参加しなければならなくなる」、「平和のために日本は軍隊を放棄すべき」³と主張し、やはり戦争のない平和な状態が理想だと考えている。

一方、改正賛成派は「第九条は改正し、日本は自国を守ることができる最低限の軍事力を持ち、世界第 2 位の経済大国として国連を中心に積極的に国際貢献を行っていくのが日本に課せられた責務だ」³という視点から意見を述べている。いずれにせよ、日本国民、及び日本政府はどのような「平和」を望むのか、この憲法改正は三分の二以上の声どちらを選ぶかによる。

5. 1. 3 母型、モデル

これら二つの歌詞から母型と見なせるものは、以下の 3 点にまとめられる。

- ① 秋元の『誰かのために』は 人間関係を大切することによる平和を示し、深瀬の『世界平和』は人間以外の生き物も含めて考えるべき理想としての平和を表している。
- ② 人間を超える力を持つ存在としての「神様」に頼る
- ③ 戦争を否定することで理想的な平和を訴える。

6. おわりに

記号論は、どんな事象もそれだけで自立、孤立しておらず、他の事象との関係性に立脚していることを明らかにする。歌詞に使われた言葉同士もそうだが、それぞれの歌詞自体も他の歌との関係によって意味を持つ。また、音楽は音楽以外の文化（思想、政治を含む）との関係性の上に築かれる。

一方、今回、アンケートにおいて回答者の性別や「平和教育」についての質問をもっと詰めることができなかつたことは反省している。機会を得て、次にアンケートを行う時は、実施前に、質問の内容と研究対象とするテキストとの関係などをしっかり把握しておく必要がある。このアンケートの結果、「平和」をテーマとする曲がたくさんあることが分かり、どのような曲が「平和教育」に相応しいのかを今後考えていきたい。

注

¹ : ベティ・リアドンとアリシア・カブスード、戦争をなくすための平和教育、P.94-95

² : <http://ja.wikipedia.org/wiki/日本国憲法第9条>

³ : <http://ihi8.fc2web.com/gunjiryoku/kenpou9jounituite.htm>

参考文献

ベティ・リアドンとアリシア・カベスード(2002)「戦争をなくすための平和教育」、明石書店

ミカエル・リファテール(2000)「詩の記号論」、勁草書房

Riffaterre, Michael (1978) *Semiotic of Poetry*, Indiana University Press

AKB48 誰かのために歌詞 <http://j-lyric.net/artist/a054ab5/1024273.html>

AKB48 Official: 誰かのためにプロジェクト <http://www.akb48.co.jp/darekanotameni/>

J-Pop <http://ja.wikipedia.org/wiki/J-POP>

世界の終わり 世界平和歌詞 <http://j-lyric.net/artist/a053b33/1022043.html>

世界の終わり公式サイト <http://sekainoowari.jp/#!/profile>

平和ボケ <http://d.hatena.ne.jp/keyword/%CA%BF%CF%C2%A5%DC%A5%B1>

憲法九条は改正すべきか <http://ihi8.fc2web.com/gunjiryoku/kenpou9jounituite.htm>

日本国憲法第九条 <http://ja.wikipedia.org/wiki/日本国憲法第9>